

## 平成15年度 受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

日立郷土芸能保存会（茨城県日立市）

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

白鳥拝殿踊り保存会（岐阜県白鳥町）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

八王子まつり実行委員会（東京都八王子市）

地域伝統芸能大賞 支援賞（第3類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

田村 恒夫（徳島県徳島市）

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第4類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

能登キリコ祭り振興協議会（石川県七尾市）

地域伝統芸能奨励賞

渋谷 和生（青森県弘前市）

## 受賞者 プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

日立郷土芸能保存会（茨城県日立市）



茨城県日立市では毎年4月に日立さくらまつりが盛大に実施されている。この祭りのメインイベントとして曳き回されるのが、「日立風流物」とよばれる高さ15mの山を背後に聳えた、唐破風造り五層の城郭を模した巨大な山車で、そもそも江戸時代中期より神峰神社の大祭典に氏子たちが奉納公開してきたものだ。

この山車には関東地方ではめずらしいからくりの人形が組み込まれており、多数の人形が多くのからくり人形の綱を巧みに操作することによる早変わりの人形芝居は日本随一と評価されている。

日立風流物は一時衰退したが、戦後いち早く地元の根元甲子男氏が日立郷土芸能保存会を結成、私財を投げ打ち全国から江戸に遡る操り人形の頭を収集し、その保存、継承に努めた。その後同会会員が身命をかけて受け継ぎ、「日立さらら」などの伝統芸能などとともに、今回まで守り続けている。

先のさくらまつりには毎年60万人を集客、観光及び商工業振興にも多大な貢献をしている。

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

白鳥拝殿踊り保存会（岐阜県白鳥町）



「白の拝殿踊り」は岐阜県白鳥町に江戸時代中期頃から踊られている盆踊り。主に白鳥神社の拝殿の中、切り子灯籠の下で手を組み合ったり、肩に手を置いて踊るなど振りが古い姿を残しており、楽器、太鼓を伴わない踊りにも特徴がある。白鳥拝殿踊り保存会は昭和22年に設立された。以後50余年に渡り「場所踊り」「源助さん」等古い踊り種目の伝承を守り、毎年8月17日、9月22日の夜は白鳥神社拝殿で、8月20日夜には貴船神社拝殿で白鳥の拝殿踊りを行っている。これに加え、新たに音色を取り入れた「白鳥おどり」を整備し、毎年お盆を中心に20日以上踊られ、本来躍動的な振りの楽しさ、明るさが若い人達に大人気で、郡上踊りに退けを取らない。

地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

八王子まつり実行委員会（東京都八王子市）



東京都八王子市は江戸時代、甲州街道の宿場町として、江戸後期以降は織物の町として繁栄してきた。同街道に面した旧市街地にある2つの鎮守社ではいつの頃からか各々の祭礼で山車が曳かれていた。昭和30年になると、これら2社を併せた八王子市民祭がスタート、同41年には山車が参加し、同46年には「八王子まつり」と改称された。この祭りは山車17台と神輿、獅子舞、祭囃し等を中心に、市民参加型イベント、花火大会を加えた総合的な夏祭りとして実施されてきたが、昨年度から花火大会を切り離し、地域伝統芸能の彩りをより高めた祭りとして、8月初旬の3日間で40万人を集客する。ここに至る八王子まつり実行委員会の貢献は大きい。

### 田村 恒夫（徳島県徳島市）



徳島県を代表する芸能である阿波人形浄瑠璃は、長い歴史と伝統を持つ人形芝居だ。明治時代には阿波人形を製作する「天狗久（てんぐひさ）」と呼ばれる名人の人形師を輩出し、その類稀な作品は見るものを惹き付けて止まなかったという。田村恒夫氏（77歳）は天狗久の流れを受け継ぎ、昭和39年以来「阿波木偶」を作り続けている。木偶とは四国地方では人形を意味する言葉で、阿波人形をこのように呼ぶ。阿波木偶は高さ130cm、重さ6～10kgもあり、頭の製作を中心に17の行程を経て人形が完成するのに1年を要する。昭和52年には阿波木偶制作保存会を結成、次代への継承にも力を注ぐとともに、自宅工房を個人博物館として開放するなど、地域観光振興への協力も惜しまず、「人形恒（にんぎょうつね）」と呼ばれる田村氏の功績は多大である。

### 能登キリコ祭り振興協議会（石川県七尾市）



石川県能登地方では、毎年7月から9月にかけて「石崎奉燈祭」「輪島大祭」「春日野キリコ祭り」を始め各地で「キリコ」と呼ばれる巨大な御神燈が神輿の渡御にお供しながら神を守り、乱舞する祭りが繰り広げられるが、これらの祭りを「能登キリコ祭り」と総称、その数は80を上回る。能登キリコ祭り振興協議会は平成9年に関係19市町村で結成、以降短かい年数にも係わらずキリコを能登のイメージとして定着させ、祭りのオープニングである「能登キリコフェスティバル」を始め、広報宣伝、旅行エージェント企画商品の助成、観客受け入れ対策等、多彩な事業展開を図り、観光誘客による能登の地域振興に寄与した力は大きい。

### 渋谷 和生（青森県弘前市）



青森市出身の渋谷和生氏（33歳）は、16歳の時津軽三味線の第一人者である山田千里氏の内弟子となり、その卓越した技術と才能で、平成2年、20歳の時津軽三味線全国大会でA級チャンピオンに輝いて以来、若くして同賞を3回獲得してきた。また、山田氏とともに津軽三味線の普及、伝承等のため世界各地での民族文化交流にも参加している。

これまで弘前市を活動拠点としてライブ出演が主だった渋谷氏は、最近山田氏のもとを離れ、新たな道を歩み始めたが、絶えざる精進と後継者への育成を決して怠らない。津軽三味線の基本である伴奏に類まれな力量を持ち、昨今流行の曲引きにも才能を発揮する渋谷氏に、今後ますますの活躍が期待される。